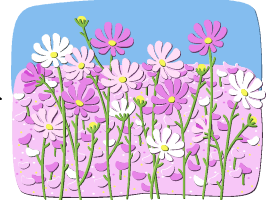




被災から2ヶ月あまり。ふと、気づけば心地よい秋風が吹く季節になりました。例年ですと、運動会に向けて子どもたちが一丸となって躍動している姿が見られる頃ですが、今年は、「耐える」試練の秋を迎えました。

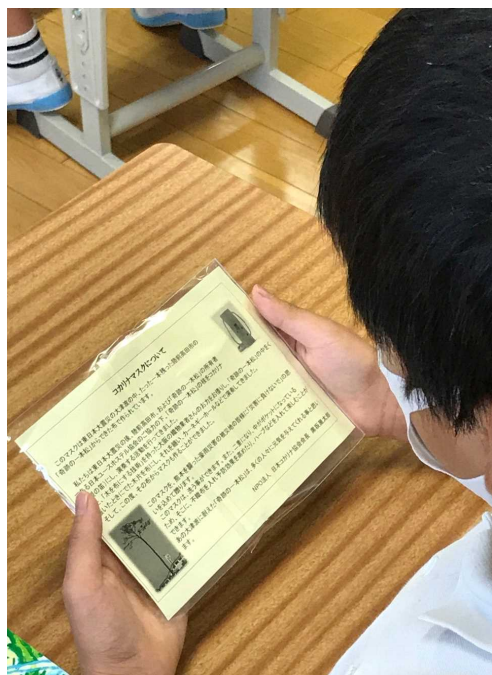
先日、さまざまな困難に負けず努力している子どもたちを元気づけようと支援して下さるたくさんの方々から物資をいただきました。



10日には、ロンドンオリンピック大会銀メダリスト（女子ダブルス）の藤井瑞希様から教育委員会を通じて学用品をいただきました。本校には、社会体育でバドミントンをしている子どももおり、郷土のあこがれの先輩（湯浦中出身）からのプレゼントに大変喜んでいました。

14日には、絵本が届きました。「ぼんくま実行委員会」（ブックフェスティバル本熊本）の皆様からでした。「絵本をとおして、子どもたちに一瞬でも心にやすらぎを感じてほしい」との思いが全国に広がり、各地から絵本が届いたそうです。佐敷小校区の区長様のご紹介により提供いただきました。重点目標の一つである、「本に親しむ子ども」を増やすためにも読書活動の推進に活用させていただきます。

17日には、NPO法人「日本コカリナ協会」（代表 黒坂黒太郎様）から本校の卒業生を通してマスクをいただきました。このマスクは、東日本大震災の津波に耐えて残った岩手県陸前高田市にある「奇跡の一本松」を保存処理する際、木の中をくりぬいたときにできた木片を使って作製した布を活用して作られたものです。コカリナマスクの贈呈の様子（5年2組）は、ニュース番組で放映されました。



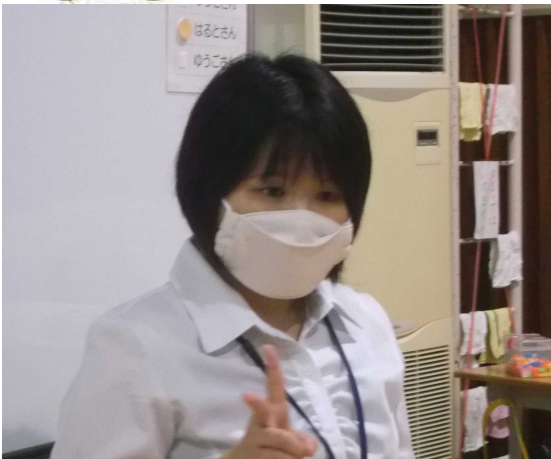
取材を受けた漆山桃胡さんは、「このマスクには、いろいろな方の思いが込められています。感謝して大切に使います。そして、私も『奇跡の一本松』のように災害やコロナに負けないで頑張っていこうと思います」と話していました。

芦北町出身者や佐敷小関係者の皆様の物資に込められた「郷土愛」「母校愛」をしっかりと子どもたちに伝えていきたいと思っております。ありがとうございました。

芦北町出身者や佐敷小関係者の皆様の物資に込められた「郷土愛」「母校愛」をしっかりと子どもたちに伝えていきたいと思っております。ありがとうございました。



各担任による学級紹介



なかよし1組は、元気いっぱいの楽しいクラスです。授業では、「はいっ。」とまっすぐ手を挙げて発表しています。個別学習のときは、最後まで粘り強く取り組むことができます。休み時間や昼休み時間には、みんなで仲良く遊んでいます。友達の片づけを手伝ったり、「こっちだよ。」と教えたりするなど、周りの人にやさしく接することができる子どもたちです。これからも、元気いっぱい笑顔あふれるクラスであり続けるために、みんなで『考動』していきます。 なかよし1組担任 寺川 愛美

みんな元気で明るく、真面目に学習に取り組んでいます。一つ課題を挙げるならば、自分の考えや思いを表現することが苦手です。授業では、これまで「みんなの声が授業をつくる」のもと、一人一人が成長することを目指して取り組んできました。最近では、少しずつ自分の思いや表現を伝えられるようになってきました。また、発表がなくなり、学びが広がってきました。これからも、すべての子どもが、堂々と自分の思いや考えを表現し、一人一人の良さを、そして個性を磨いていってほしいです。 5年2組担任 吉永 史斗



小中交流 ～ちょっといい話～



19日(土)に開催の体育大会の成功を祈って本校から田浦中学校へ「てるてる坊主」を贈りました。数日雨天が続いたため、子どもたちが昼休み時間に一つ一つ丁寧に作ったものを、一本のひもに吊して届けました。「明日は頑張ってください。佐敷小学校のみんなが心から応援しています」との言葉を添えて・・・。

すると、田浦中学校の生徒から一人一人のメッセージ付きの用紙が代表児童によって届けられました。「小学生の元気な声が励みになります」「皆さんのおかげで時間に追われる日々も笑顔で過ごせます」「体育大会がんばります！」などの言葉が書いてありました。

当日、心配された天気も快方に向かい、大成功に終わったとの話を校長先生からお聞きし、児童・職員一同みんな喜び合いました。中学生の凛とした姿を手本にしていきます。

